

令和2年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立戸山高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 総務主任＝事務局長、教務主任、副校長 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務主任)、主任教諭(生活指導主任)、
主幹教諭(進路主任)、主幹教諭（総務主任）、主幹教諭(3学年主任)、
主任教諭(2学年主任)、主幹教諭(1学年主任)、主任教諭(S S H部主任)、
主幹教諭(TM部主任)、総務部(事務局) 計13名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
学識経験者(日本学術振興会1、医師1、大学教授2、教育委員会特任教授1)、
近隣中学校長、同窓会長、企業経営者、PTA会長、前PTA会長、 計10名

2 令和元年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
第1回 令和2年5月16日(土) 15:30～16:45
新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
第2回 令和2年10月10日(土) 15:30～16:45
出席者 内部委員11名 協議委員8名
校長挨拶、学校評価アンケート総括説明、評価の進め方の確認
令和2年「学校経営計画」進捗状況
第3回 令和3年2月13日(土) 15:00～16:00
出席者 内部委員12名 協議委員8名
校長挨拶、令和2年度「学校経営計画」成果と課題
学校評価アンケートの結果報告、分析報告、協議、総括

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・11月 全校生徒 791名（961名の82.3%）
 - ・11月 保護者全員 739名（961家庭の76.9%）
 - ・11月 教職員 52名（52名の100.0%）
- (3) 主な評価項目
学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、ライフ・ワーク・バランスなどの視点から、本校の現状や、生徒・保護者の満足度、学校経営計画の達成状況について、ポイントを絞って項目を設定する。
なお、今年度から評価項目を変更し、段階も5段階評価としている。

戸山高校全般について

・戸山高校に入学して良かったという項目の肯定的数値は、生徒は約82.7%、保護者は約92.7%であった。

・2学年生徒の満足度が他学年と比べて低かった。

学習活動について

・「生徒の希望する大学の進学に向け教材などの工夫を凝らした授業を行っている。」との項目は75.9%であり、「学習ガイダンスや、補習・補講、夏期講習等、生徒の学力向上に熱心に取り組んでいる。」は89.5%という数値であった。

・「自主学習の時間を確保し、学習と諸活動の両立ができています。」との項目は3年生が高く、コロナ禍の状況にあっても学習に取り組んでいたことがわかる。

・主体的・対話的で深い学びの授業実践や授業改善が今後の課題としてある。

進路指導について

・必要な進路情報の提供について、生徒と保護者の満足度はともに高く、とくに3年生生徒と保護者全体の満足度は高く、適切な情報提供ができています。

生徒指導について

・生徒が部活動や学校行事に主体的に参加していると感じる生徒と保護者の割合が8割を越えている。昨年度は全学年9割を超えているが、今年度は3学年が低めであることからコロナ禍による影響が大きい。

・「学校からの情報（HRでの配布資料など）をきちんと家庭に伝えている」という項目が生徒72.5%と保護者63.7%と開きが大きい。

自主学習について

・コロナ禍において例年よりも1、2年生が学習時間を増やし、積極的に学習に取り組んでいた。うまく取り組めなかった生徒との間に差が広がった。

・教員によるオンライン教材や学習を活用し、学習を進める生徒が増えた。

まとめ

・コロナ禍にあつて、授業確保、模試対応、休業中の講習、個別相談、行事や部活動の変更と工夫、SSHのオンラインでの探究、TMによる医学部研究、各学年のHR活動等、各分掌が様々な対応を行った。そうした学校の取り組みに、生徒と保護者が応え、不十分な部分はあるものの充実した教育活動を実施できた。

・学校評価アンケートをオンラインで配信、回答したが、次年度に向けて、実施方法や回答率の向上に向けて改善が必要である。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価への反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

・多岐にわたる教育活動、教職員の意識、学校マネジメント等、外部から期待されている。今後も学校外の協議委員の視点や協力を得て、不易流行の教育活動を実践していく。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかになった課題

・進学指導重点校として、難関大学への進学者を増やし、また、社会に出てから必須となる力を育成するために、グランドデザインに基づいた教育活動と主体的に学ぶ姿勢が不可欠である。

・学校評価アンケートや他のアンケートにより経年変化を追い、結果を分析して改善につなげて行く必要がある。自由記述の回答と生徒の様子等、今後の経過を見ながら、学校全体で取り組むことが重要である。

・ICT化が今後さらに進むため、戻るのではなく良い物を取り入れ、活用していく必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

- (1) 学校運営
 - ・生徒や保護者に対して、教育方針である主体的な活動の推進について説明し協力を求める。
 - ・学校の教育活動について保護者や世間にうまく伝わっていないので、ホームページ等を活用して広報活動を充実させる。
- (2) 学習指導
 - ・SSHや文理融合のカリキュラムによる総合力の育成を図る。主体的・対話的で深い学びを授業で実践する。
 - ・教科の学習指導において、下位層を支え、中間層の主体的な学習を推進し上位層の拡大による進学指導重点校としての実績向上を図る。
- (3) 特別活動
 - ・自主的な計画作成とメリハリのある活動を課外活動において実践させる。
 - ・1日3時間以上の学習時間を確保し、生徒に主体的な学習計画と活動計画を立てさせる。
- (4) 進路指導
 - ・学力、模試分析等の資料を充実し、生徒が主体的に取り組むよう進路指導計画をたえず改善する。
 - ・生徒の個別データを蓄積し、生徒の進路指導に生かしていく。
- (5) 健康・安全
 - ・コロナ禍において健康の維持、感染拡大の防止に学校全体で取り組む。
 - ・大震災等にも対応できるように、生徒の健康と安全対策の改善を行う。
である。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 10人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
5	2	1	0	0	0	2

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回

8 その他

評価アンケートの評価項目を学校の方針と生徒、保護者の理解が明確になるように改善する。